

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター佐鳴台 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 2 月 28 日 （ 金 ） 9 時 30 分 ～ 11 時 10 分
2 開催場所	Uホール 23会議室
3 参加者	18名 委員10名(佐鳴台地区5名、城北地区5名)、関係機関8名
4 協議の内容	1. 開会 2. 挨拶 3. 令和6年度第2回協議体会議の振り返り ・パワーポイント資料を用いて前回の振り返りをした。 他の圏域での取り組みについて ・パワーポイント資料を用いて紹介 4. 認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練の報告 【地域包括支援センター佐鳴台】 地域包括支援センター佐鳴台より、1/22に和地山公園集会所周辺にて行われた認知症ひとり歩き声掛け訓練、2/10に行われた認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練意見交換会についてアンケート資料の配布。また意見交換会に参加された方の意見を共有報告。あわせて、2/26に行われたキャラバンメイト総会にて出た意見を共有報告。 5. 今年度を振り返り、次年度に向けて意見交換 ・見守りは地域の課題としての認識 ・認知症の方全員に課題があるわけではない。 ・認知症の方とつけてしまうだけで、壁が出来てしまう。 ・認知症の前に集まる場の必要性、機会を作る。男性は大義名分がいる。 ・認知症は見た目では誰かわからない。当事者を傷つけずに対応する難しさ。 ・家事支援が多くなることも危惧。家族でのささえがあれば良いが、依頼は増えてきている。身の回りのことが出来ない人が多くなってきた。 ・銀行で高齢者が何度も同じことを聞いていた⇒金融機関側の対応はどうか？困難さを感じている？高齢者の財産や権利を守る対策も必要 - 金融機関との連携⇒ATMでの対応を見かける - 訓練に参加した金融機関での対応の話を聞いた。 ・地域住民へ様々な事例を積み上げ(教育)していくことで、自然に地域力が上がる。シニアクラブや日常の関わりで意識のある人が専門機関につなげる。 - 仕組みを意識し、見守りの目を増やす。 ・認知症は普段接している人にしかわからないが、自覚できる取り組みが必要では。 ・幼いころから理解を広めていく。学校の福祉教育。 ・市老連 女性部を中心に勉強会をしている。 ・ここ2～3年で認知症を取り巻く環境が変わってきている。 - 本人・家族がカミングアウト - 家族の方から状況について聞くことがある。(教えてくれるようになった) ・地域団体間のつながりが薄い。地域の諸団体のつながり

地域にどんな団体があつて、どんな活動をしているのか、どうつながるのかを考えると先に進まない。（地域活動団体を整理し把握し直す必要がある）

- ・買い物に行ける先が、コンビニと杏林堂のみ。町内に新聞店もある。何かあったら教えてというチラシを作成しようか検討中（民生委員と包括の連絡先など）

◎あんしんネットワークより小さなネット 関係づくり

町内あんしんネットワーク

- ・週3回グラウンドゴルフ、土曜日輪投げの活動をしている。活動を通じ老化予防にもなっている。今ある活動を広めていく。
- ・先日風揚げの会合で、認知症の方の行方不明やオレンジシール、オレンジメールについて周知をし、自分なりに働きかけをおこなった。
一歩踏み出して、声掛けをしましょうと意識づけた。
住み慣れた土地での生活は認知症の症状をゆるやかにすることが出来る。
- ・自治会役員定例会にて声掛け訓練の報告を行い、その後組長さんから相談が入ったこともあった。報告、情報共有をおこなった成果が見受けられた。

※必要であると考えられること

- 1) 福祉教育的取り組み
- 2) 地域団体の連携
- 3) 小さい単位でのあんしんネットワーク的なもの

銀行、店舗、包括、住民、民生委員等打ち合わせする場面も増えている。

住んでいる地域での見守りネットワーク→**チームオレンジ**

◎店舗や事業所と顔合わせの機会です事例の紹介

6. 事務連絡

7. 閉会 鴨江圏域生活支援体制づくり協議体 会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体会議では、地区の垣根なく地域での見守りとして今後必要であると考えられることについて共有することが出来た。地域住民へ見守りについて意識してもらえよう働きかけを行っていくことももちろんのこと、今一度地域で活動している団体について確認をし、今後連携を行うためにも関係性を構築する必要がある。